

ここ数年來のエスニック・ブームで、民族衣裳、民族料理などが再発見され、音楽の分野でも、アフリカのジュー・ミュージック、インドネシアのダンス・ミュージック等、エキゾチックな音楽が耳に親しいものとなってきました。

そんな中で、案外、注目されてなかったのが、ヨーロッパ中世の音楽。芸術的に洗練されて、「クラシック」になる前の、ヨーロッパのエスニック・ミュージックです。けれど、最近、広島も、中世音楽に接する機会が増えてきました。

今回は、広島中世音楽ムーヴメントの若き仕掛人、迫田浩一氏に登場してもらいます。



「本当に忙しいところ、ごーも。最近はどういう時間帯で生活してるんですか。」

朝、新聞配達して、昼は、肉体労働のバイト、夕方は又、新聞配って、残りの時間は、練習、それに、慶応大の通信教育受けているので、その勉強です。

「実は、慶応ボーイだったんですね。相変わらず、スコイスケジュールですね。今、音楽の方ではどんなグループに、かかわっているんですか。」

「まず、ヒロシマ・ブロンジカアンティカ。中世及びルネサンスの音楽を幅広く演奏している。広島では老舗のグループです。それに、僕が中心になって作った世俗音楽中心に演奏する、広島で一番過激な中世音楽のグループ、レ・ゴリアール。これは遍歴楽師、放浪学生の意味です。（このグループ、何回か広島各地

の路上に出没して演奏してるの、見た人も多いはず）

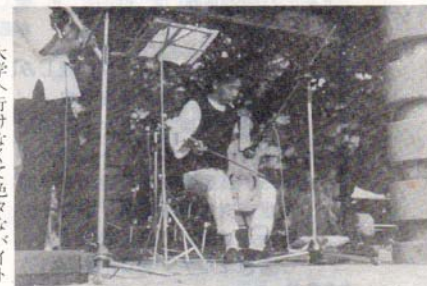
あと、広島宗音楽研究会と「ゴール・アル・アンティカ」という声楽のグループ。今のところ、名前だけだけど、東京の「東京ルネサンス・バンド」の会にも所属してます。最近ソロ活動も多くなって、この前も、並木通りの路上で演奏しました。

「ひやー。経歴紹介だけで、圧倒されてる人も多いと思います。迫田さんと、中世音楽との出会いはどんな風だったんですか。」

子供の時からずっと、クラシックに親しんできたんですけど、今にして思えば、クラシックで、いいなあと、思っ、ひかれていた部分の、教会法とか、単純な音型の繰り返しとかが、中世ルネサンスの音楽から直接受け継いだものだったワケ。だから中二の時、初めて古楽器による中世音楽を聴いた時、なんというか「なつかしさ」といったものを感じて、「自分の求めていたものはこれだったんだ」と思い、バクゼンと将来してみたいと思っただけで、その当時は、古楽器なんか手に入らなかったし……」

「それで高校では、声楽を専攻して、一方で、ピアノの弦が切れちゃうような前衛的な演奏もやってたんでしたよネ。

高校卒業して、お金が無くて



「大学へ行けなくて色々なバイトしながら、音楽活動を続けていた。」

「いわゆる、クラシック音楽をです。」

「まあネ。そうこうして、3年前、「リニート・フェスティバル」という催しに、知人のグループの手伝いで参加した時、そこで、「ヒロシマ・ムジカアンティカ」の演奏に接し、広島でも中世音楽をやっているグループがあることを知って、絶対入れてもらおうと思っ、楽器運びでもいから加えて欲しいって、頼み込んだワケです。」

「迫田さんでさえ、最初は楽器運びだったんでしたか（笑）」

「いや、子供の時から、クラシックやってきて、だいたいこの業

器はやっていたので、最初からちゃんと演奏させてもらえませんでした。

「というところで、中世音楽をはじめ、現在の神出鬼没の大活躍につながっているわけですね。」



「ここで、音楽に限らず、中世という時代のもつ魅力について話してもらいたいですか。」

「まず、中世の放浪学生。生きた方に魅力を感じます。彼らは学問をするために、今みたいに広大とか修大とか決まった大学に通うんじゃなくて、優秀な学者を訪ねて、各地を放浪して修業したんです。お金のために、時にはボンビキや、大道芸なんかもしながら、彼らの、生きる上での緊張感と活力にひかれます。彼らの名前をとったグループ、

「レ・ゴリアール」というのをやってるし、今、職場の水に染まらないうえ、身軽な立場で活動しているのも、彼らの生き方を見習ってる部分か、ちよっぴりはあるんです。（笑）

「それから中世は、まあ、実際見てきたわけではないんですけど、音で結ばれた世界だったと思う。どういことかという、例えば、教会の鐘の音が人々の生活のリズムを刻んでいた。他にも職人たちの音、遍歴楽師の奏でる音楽と、豊かな音が街中にあふれていたと思うんです。」

「そんな時代だった中世の音楽を、現代に持ちこむ意図について少し。」



「当時の音の考古学的な再現じゃなくて、どうしたら現代に息づくか考えてやってるワケです。音が結ばれていた、中世における

「街・本来の意味を現代に問い直す、そういう姿勢でやってるんです。」

「路上で演奏するのも、そういう意味があるんでした。これから、こういう風な活動をしていきたいですか。」

「広島の上で、ルネサンスのダンスをやってみよう。簡単な踊りで、ティスコなんかで踊ってる人はすぐできると思うので、タンサー募集です。それに、僕は、中世音楽やクラシック以外のジャンル、ジャズでも、ロックでも、歌謡曲でも、好きです。色々な音楽をやっている人たちが共演していきたい。」

「最後に、これからのライヴのスケジュールをお願いします。」

「まず、今月の9月27日の土曜日。喫茶「コンソート」TEL (082) 246の3260で「サロン・コンサート」と題して、僕と、マスターと、「レ・ゴリアール」の女の子の3人で演奏します。午後6時くらいから始める予定です。それから、10月の12日(日)には黄金山の「広島キリスト教会」

◎ 対談後記

写真はイヤだと言いつたけれど、カメラをだすと、のつてきて、街中歩きまわらせてしまいました。元気な人だなあ。写真を撮らせてもらった「コンソート」と「青い眼」。一緒に写ってくれた、「青い眼」の御主人と、みちるちゃん、とうも、ありがたかったです。

